

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	児童が自ら課題を見つけ、自ら追究し、自ら表現する学習活動に重点を置いた指導を行う。	中間評価	算数科では、問題解決的な学習過程を共有しながら指導を進めている。	最終評価	・標準スコアによる経年変化を見ると、全学年で学力が向上した。
		道徳を柱として、思いやりの心を育む学級・教科経営を行う。		道徳科を柱として、各教科・領域等の関連を明確にしながら指導を進めている。		・道徳ノートを活用しながら、自らの考えを記録し、振り返る活動を充実させた結果、学習に前向きに取り組む児童が増えた。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	・ひらがなの読み書きは、ほとんどの児童が習得できているが、整った文字を書くことが不十分であったり、時間がかかったりしている。 ・ほとんどの児童は、日記などの簡単な文章を書くことができるが、助詞や促音などに課題がある。	・ひらがなは、整った文字を書くことが不十分であったり、時間がかかったりすることが課題である。 ・文章を書くときに、助詞や促音などを適切に使用して書くことに課題がある。	・宿題で繰り返し添削を行い、正確に書けるようにする。 宿題として、あのねノート（日記）を週に一回出し、文章を書く機会を多くする。 ・書くことの単元の学習を中心に、文章を書く場を計画的に取り入れる。	・自分の考えや感想を2文以上書くことができるようになってきた。また、文の中で正しくひらがなを書くことができるようになったが、助詞を適切に使用して書くことには、課題が残るので、個別に声掛けをするなど指導していく必要がある。年度当初と比較して、学習に対する意欲が高まってきている。基礎的・基本的な学習内容の定着について課題がある。次年度以降も、指導を継続していく。	
	算数	・10以内の加法・減法については、ほとんどの児童が理解している。まだ、計算をするのに時間がかかる児童がいる。	・計算をするのに時間がかかる。 ・課題把握が不十分なことにより、立式を間違ってしまう児童がいる。	・朝学習やベーシックタイム、宿題などを活用して、計算練習の習熟を図る。 ・問題場面を把握できるように、図（絵）などを使って考えさせるようにする。	・朝学習やベーシックタイムなどを活用することで、繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算を正しく計算できる児童が増えた。課題が残る児童もいるので、継続して指導していく必要がある。 ・問題場面を図などを使って考えることができるようになった児童が増えた。課題が残る児童もいるので、継続して指導していく必要がある。	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月） → 最終評価（2月）	
2	国語	・ひらがなの読み書きはほとんどの児童が習得している。カタカナや漢字の読み書きの理解が十分でない児童もいるので、文章の中で適切に使えていない様子がみられる。	・カタカナや漢字については、書くのが十分でない児童がおり、文や文章の中で適切に使用することに課題がある。 ・文章を書く経験が少なく、文章を読み返す習慣が十分に身に付いていない。	・カタカナや漢字を使って、文や文章を書く場面を意図的に設定する。学習の中で、全体で確認をする。 ・書くことの単元の学習の中で、文や文章の書き方の指導をする。つながりを意識して文章を書く活動を日常の授業の中へ計画的に位置づける。	・カタカナや漢字を使って文や文章を書く場面を、毎日少しずつ扱い、カタカナや漢字を使って文や文章を書く場面を意図的に設定する。学習の中で、カタカナや漢字が正しく書けているか全体で確認をする。 ・書くことの単元の学習の中で、つながりのある文や文章の書き方を指導する。つながりを意識して文を書く活動を、日常の中で計画的に取り組む。	・調より、カタカナや漢字を正しく読んだり書いたりすることの正答率が9割以上であり、ほとんどの児童が習得できた。一方で、話すこと・聞くことにおいて、課題が十分把握されている正答率は7割であった。書くことにおいては、目標まで到達していたが、自分の経験・想像したことの中から書くことを決め、文章を書くことの正答率7割であった。話し合う活動や指導を通して継続したことを書く指導を継続していく必要がある。
	算数	・10以内の加法減法については、ほとんどの児童が理解できている。繰り上がりのある加法や繰り下がりのある減法について、理解が十分でない児童がみられる。	・繰り下がりのある減法の計算の仕方について、理解が十分でなく一部の児童は操作や言葉等を用いて表現することに課題がある。	・授業の中で、半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。また、操作したことを言葉で表現する活動を重視し、授業に位置付ける。	・授業の中で、半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れ、操作したことを言葉で表現する活動を重視し、授業に位置付ける。 ・算数科における正しいノート記述の技能を児童に身に付けさせる。	・調より、計算においては、正答率8割以上であり、ほとんどの児童が習得できた。一方、量と測定において、単位換算や比較などの見方は、5割であったため、次年度以降も継続して指導していく必要がある。 ・授業における正しいノート記述の技能は、身に付いてきたが、課題が残る児童もいるため、次年度以降も継続して指導していく必要がある。
3	国語	・話すこと・聞くことが不十分なので、繋がりのある文章を書いたり、順序良く話すことに、苦手意識もつ児童が多い。	・話すこと・聞くことの領域が区平均より、6ポイント下回っており大きな課題がみられる。 ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については全国平均を上回っており、良好である。	・話す活動については・伝える・報告する・説明する等具体的な生活の中で必要となる活動を取り上げ、目的意識を持たせた指導を進める。 ・読む学習については、心情の分かる文や、段落の要点に注目させ、気持ちを考えさせる活動を多く取り入れる。	・話す活動については、発言はできるようになってきたので、発問のねらいを明確に理解し発言するために、話を聞くことの大切さを繰り返し指導する。 ・読む学習については、段落の要点、心情が分かる文を色鉛筆でラインを引いたり、シールを貼ったりすることで文章を根拠にして考えられるように指導し、文中のキーワードを用いて、小見出し、タイトルを考える活動を取り入れる。	・ねらいを明確に理解することがまだ不十分である。積極性があるので、しっかりと聞いて、どういったことを答えるのかはっきり理解させた。そのためは、分かり易い発問をし、分かるという自信をつける。 ・視覚的に把握させることで、子供たちの理解が向上した。色鉛筆やシールを貼るといった作業的な活動が子供たちにとって合っているため、今後も継続的に行っていく必要がある。
	算数	・かけ算の九九や乗法を用いた文章問題については、ほとんどの児童が理解し、習得できている。 ・繰り上がりのある計算はほとんどの児童が理解できているが、繰り下がりのある計算は、理解が十分でない児童がみられる。	・数学的な考え方については、全国平均より10ポイント上回ることができた。 ・知識・理解については、区の平均より2ポイント低くなっており、観点別の結果の中で課題がみられる。 ・数と計算は全国平均を上回っており、良好である。	・東京ベーシックドリルについては、引き続きベーシックタイムで活用していく。 ・アレイ図・数直線図等の立式のための根拠となる図の使い方を指導する。 ・時計の学習において、既習事項を確認するとともに、時間や時刻を求める活動を取り入れる。	・ベーシックタイムで算数プリントや子供が作った問題「子供チャレンジ問題」を解くことで内容の定着を図っている。 ・アレイ図や数直線で立式することに課題がある児童もいるため、具体物を示し、体験的に活動することで、立式につながる指導を取り入れる。 ・時計の学習において、未来や過去の時刻を理解することに時間がかかった。習熟度を図るために時刻を求めるテストやプリントを用意し取り組ませる。	・計算においては、ベーシックタイムでの取り組みや習熟度の成果もあり、正答率が7割~8割に上がった。だが、ケアレスミスが非常に多いため、確認が必要である。一方、時刻と時間、長さにおいては、5割~6割であったため、次年度以降も継続して指導が必要である。 ・アレイ図や数直線で立式することに課題がある児童も多いため、次年度以降も、具体物を用いることや体験的な活動を取り入れる必要がある。

4	国語	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年までの配当の漢字を読むことに関しては概ねできているが、書くことにおいて目標値を下回った。文章を書く際にも漢字を使えないことがよくある。 物語文や説明文において、概ねすべての児童が登場人物の心情や文章の内容を読み取ることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3年生までの配当漢字を書いたり、それを文の中に用いたりすることにおいて課題が見られる。 話すこと・聞くことにおいて、内容を聞き、理解することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> テストやフラッシュを定期的に行い、繰り返し取り組むことで定着を図る。また、日常のノート指導や文章を書く際に、適切に漢字を使えるよう指導をする。 全校朝会の講話内容を、毎回まとめ、自分の考えを書く活動を通して、話を聞き理解する力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に書き取りを行ったり、漢字の広場を活用したりすることで、定着を図っている。また、ノートや自学ノートなど、文章を書く活動を多く取り入れ、その中で既習の漢字を確実に使えるよう指導を行っている。 全校朝会の講話内容をまとめ、自分の考えを書く活動を通して、少しずつ要点を考えながら話を聞くことができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習やノート、文章を書く活動の中で既習の漢字を確実に使えるよう指導を行ってきた。概ね、定着が見られたが、数名の児童において課題が残った。今後も引き続き支援が必要である。 「聞き取りメモの工夫」の学習を通して、必要な情報を書き取る活動を繰り返し行った。少しずつ要点を考えながら話を聞くことができるようになってきている。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算、ひき算、かけ算の筆算においては、ほぼすべての児童が正しく計算することができているが、わり算において目標値を下回り、課題が見られた。 時刻と時間において、目的地に着く時刻を求める問題の理解が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> わり算において課題がある。 時刻と時間において、目的地に着く時刻を求める問題において課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ベーシックドリルやフラッシュを活用することで、定着を図る。また、わり算の筆算の単元に入るにあたって、繰り返し計算練習に取り組む。 時刻と時間の学習において、ベーシックドリルを活用し、既習事項の内容を確認し、習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算の単元に入るに当たって、わる数が1桁のわり算を繰り返し行った。そうすることで、2桁や3桁のわり算も定着してきている。 「時刻と時間」においては、まだつまづきが見られる。繰り返し取り組むことで、習得を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数のわり算の学習を通して、わり算の筆算に繰り返し取り組んだ。商を正しく立てることができるようになり、2桁や3桁のわり算も定着してきた。 「時刻と時間」においては、ベーシックドリルを活用し学習の定着を図った。数名の児童において課題が残った。指導を継続していく必要がある。
5	国語	<ul style="list-style-type: none"> 作文に関しては、書くことに大きな抵抗がある児童は少ないが、書くことの領域では、目標値を1.5ポイント下回っている。 漢字については、正確にという意識が低い児童が見られる。 活用の正答率は、目標値を15ポイント上回っており、記述の正答率を2ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や必要に応じて、要点を押さえて書く力に課題が見られる。 漢字については、正確な知識の習得が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文メモを活用し、大事なことは何かを明確にし、要点を押さえた文章の書き方を意識して指導を行う。 小テストを定期的に行い、繰り返し学習を進めていくことで、知識の習得を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文だけでなく、国語の書く学習において、伝えたいことのポイントを押さえ、箇条書きにして内容を整理する指導を継続しているところである。 小テストを行い、正解率の低い児童には繰り返し再テストを行っている。約9割の児童が80点以上を取れるようになってきた。今後も知識の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く学習では、生活場や自分もっている知識などと結びつけて書くことを意識させることで、概ね明確にして自分の考えを表現できるようになった。 漢字ドリルの再確認、漢字の小テストや再テストを繰り返し行ったことで、知識の定着が図られた。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 図形に関しては、苦手意識をもつ児童がおり、目標値を0.6ポイント下回っている。 基礎の正答率が、0.4ポイント下回っており、正答率度数分布では、二極化が見られる。 教科全体としては、目標値に達している。数学的な考え方については、目標値を3ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題意を理解し、図形の面積や長さを求める力に課題がある。 計算のきまりを使った計算に課題がある。 3けた÷1けた(余りあり)のわり算の計算に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図を基に、何を聞かれているのかを押さえながら解いていく指導を意識していく。 計算のきまり、わり算については、既習内容を確認し、東京ベーシックドリル等を活用して、定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 図を意識し、求めたものは何を表しているのか、時間ごとに確認し授業を進めている。また、図を用いて言葉で説明する時間を取ることで、内容の定着を図っている。 計算のきまり、わり算は、別単元の学習でも活用できることを意識させるとともに、東京ベーシックドリルやプリントを活用し、繰り返し取り組んでいくことで、定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が何を求めようとしているのか、図を用いて説明させる領域を意識して繰り返し行ったことで、立式の根拠がはっきりし、考えを整理することに繋がった。 東京ベーシックドリルやプリントを活用し、単元に合った内容や過去の復習問題に取り組みさせることで、内容の定着を図ることができた。
6	国語	<ul style="list-style-type: none"> 5学年までの配当の漢字を読むことは概ねできているが、書くことは不十分であり、文章を書く際にも使えないことがよくある。 物語文の読み取りでは、場面の描写や登場人物の様子を読み取ることが比較的できている。しかし、説明文の段落相互の関係読み取ること不十分である。従って、2段落構成で文章を書くなど、指定された長さで文章を書くことも苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生までの配当漢字を書いたり作文の中に使ったりすることに課題がある。 段落を意識した読み取りや文章を書くことの理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 5学年までの配当漢字の書き取り練習やその小テストをするようにしていく。また、作文や日記などの指導の際には、引き続き習った漢字は使うように指導していく。 説明文を扱う単元では、段落相互の関係を意識させながら授業が展開できるように指導を計画し、進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や日記、ノートでは、習っている漢字を使っている児童が増えてきた。指導を継続していく。また、ベーシックタイムを使って漢字の復習プリントにも取り組みさせる。 説明文では段落相互の関係を意識しながら段落ごとの要約ができるようになってきた。次は文章を書くときに、段落を意識させながら書くことに指導の重点を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や日記 ノート指導の際はもちろんのこと、ベーシックタイムの中学期から6年生までの漢字の復習プリントを取り組ませたことが、テストの結果等にも表れるようになった。 説明文では、段落相互の関係を意識しながら要旨を抜き取り、それに対する自分の考えをまとめることができるようになってきた。また、友達と進んで交流できるようになった。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算、わり算では、小数倍の文章問題を解くための立式はできているが、計算の誤答が多い。 合同な図形の対応する角度を求めたり、作図したりすることはできるが、立体の体積の求め方の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 少数のかけ算、わり算の計算で、小数点の位置やわり算の筆算で見当をつけて答えを求めていくやり方の理解が不十分である。 複合的な立体の体積の求め方の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習に取り組ませることで、その都度、計算の仕方の復習をさせていく。 立方体と直方体の公式を確認し、それらを工夫して体積を求めるやり方を練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの大きさの理解が不十分であるため、比や速さの学習にも影響している児童が多い。レディネステスト以外にも、単元のつながりを意識した復習をし、そこから新しい単元の学習に取り組ませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、必ず単元の繋がりを意識した復習問題に取り組ませるようにしたことが、テストなどの結果として表れるようになった。また、ベーシックタイムの復習問題に取り組ませたことも、児童一人ひとりの自信が繋がることにつながった。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も進んで音楽活動に取り組める児童が多い。 歌唱…発達段階に応じた発声で歌っている。1・2年は、のびのびとした子供らしい歌声、3年生以上は、頭声的な発声を取り入れながら響く歌声を目指しているが、まだ十分でない。 器楽…技能面に個人差がある。音色を意識して演奏することが十分でない。 音楽づくり…グループで創作活動することには、進んで取り組める児童が多い。 鑑賞…楽しんで鑑賞をしている。〔共通事項〕などを手掛かりとすると聴き取ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱…曲の雰囲気や特徴に合わせて歌い方の工夫をすることがまだ十分でない。 器楽…1・2年の鍵盤ハーモニカ、3年以上のリコーダーともに個人差がある。技能を身に付けたうえでより良い音や演奏にむけての工夫がまだ十分でない。 音楽づくり…音楽のしくみや構成などを考えて音楽をつくることはできていない。 鑑賞…〔共通事項〕を手掛かりとして、聴き取ることはできるが、楽曲全体を味わって聴くということまでは至っていない児童が多い。言葉での表現が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いをもてるようにするために、曲の雰囲気や特徴に気付き、感じ取らせるような言葉かけの工夫をする。 個人練習の時間をとり、一人一人の到達状況を把握して支援する。目指す演奏についてイメージがもてるように言葉かけをするともにそこに近づけたと実感できるようにする。 音楽のかたちや〔共通事項〕などいつでも視覚的に確認できるように教室に掲示する。 鑑賞カードや付箋での記述の際に、聴き取ったことと感じ取ったことを分けて提示するようにする。言葉での表現がしやすいように音楽の言葉のバリエーションを増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞ともに課題の改善にむけての取り組みにより、少しずつ改善されてきているが、まだ継続する必要がある。 音楽のどの活動にも必要である感じ取る感性をより豊かに養っていきけるよう、プロの演奏家による生の演奏を聴く機会を設定することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の雰囲気や特徴を感じ取って、自分の表現を工夫していくような声掛けをしてきたことで自分なりの思いをもって表現しようとする児童が増えた。 技能の習得に困難な児童に対して、朝や休み時間などに対応し、繰り返しの練習で出来るようになることを実感できるようにした。あきらめずに取り組む子が増えた。まだ学び方に戸惑っている児童には、引き続き丁寧な指導が必要である。 音楽の構成にも目を向けさせて、音楽づくりをするようにした。継続して音楽をつくる楽しさを味わえるように取り組む必要を感じる。 鑑賞については、聴き取ったことと感じ取ったことから楽曲の特徴をとらえられるように取り組んだ。今年度の取り組みを継続したい。 	

図工	<ul style="list-style-type: none"> ・見たこと、表したいことを立体や工作に表すことは、進んで活動に取り組める児童が多い。 ・基本的な道具の使い方を、習得できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、想像したことなどの抽象的な物事を絵や立体に表すことを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考となる画像を見せて、想像をふくらませたり、アイデアスケッチをしながら、考えを具体化していくようにしてから、作業に入るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチをしながら、考えを具体化していくようにしてから、作業に入るようにしているため、考えが膨らむようになり、より豊かに想像することができ、作品に反映されるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな考えが膨らむようになり、より豊かに想像することができ、作品に反映することができるようになってきた。
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。